

2018東海村成人の集い

開花 ～満開を目指して～

【実行委員からのメッセージ】

今年のテーマは「開花～満開を目指して～」としました。さまざまなことが驚くべき速さで進化している現代社会において、私たちは、多くの方々に支えていただき“二十歳”という節目の年を迎えます。

今まで周りの方々からいただいた感謝の気持ちを胸に、花咲き誇る将来のためスタートを切る決意をテーマに込めました。

式典の成功に向けて頑張ります！

【実行委員】(写真前列左から)鈴木綾子さん、清水久美子さん(後列左から)本田真哉さん、渡部龍一さん、鈴木雄大さん



【期日】1月6日(土)

【時間】午前10時～正午(午前9時受け付け)

【場所】東海文化センター

【問い合わせ】生涯学習課生涯学習担当(中央公民館内 ☎282-3329)

この地層は「今市軽石層」と呼ばれる赤っぽい色の地層で、厚さ約30センチメートル、日光男体山から噴出した火山灰層です。当時、この辺りは広い海岸平野だったは



凹形に堆積した「今市軽石層」

これらにより、当時の東海村の台地面には凹地(沼)があちこちに散在していたことが分かりました。そこに火山灰が降り注ぎ、台地上は凸凹のまま今市軽石層で覆われ、その後、凹地の沼は急速に土壌で埋め立てられて平らな台地面が形成されたことから、30年前の謎は一挙に解決しました。凹地の一部だったのです。

ところが、今から1万4千～5千年前に堆積した地層が斜めに傾いているのを、中丸の消防署東隣の道路端で見つけました。おまけにその斜めになった地層の上部に、厚いところで1メートル余りの土壌が堆積していたのです。およそ30年前の調査の時です。

一般に、地層の多くは水の中で堆積するので水平に積もります。そして長い年月を経て、地殻変動を受け、地層が斜めに傾いたり褶曲したりします。ですから数万年前に堆積した地層が、斜めになったり褶曲したりすることはほとんどありません。地層の変形には数百万年、数千万年という時間が必要だからです。

近年、中丸から神楽沢方面への道路新設工事が進み、東海村をつくる台地の上部が連続して露頭(地層・岩石が露出している場所)に出現しました。早速、調査すると、今市軽石層が緩い凹形の地層をつくり(写真)、その凹部を土壌が埋め平らな台地面を形成しているところがあちこちに見つかりました。

自然界の謎解き

ふるさと歴訪
～自然を探して～

東海村自然調査団副団長

二階堂 章信